

公益社団法人大阪狭山市シルバー人材センター
令和元年度 事業報告

大阪府の令和2年2月の有効求人倍率は1.64倍と、雇用失業環境は改善が進んでいるものの、前年同月と比較すると0.15ポイント下降しており、さらに新型コロナウイルス感染症が雇用に与える影響に十分注意する必要があるとされています。

令和元年12月19日、政府の全世代型社会保障検討会議は人生100年時代に対応し、元気で意欲のある高齢者がその能力を十分に発揮し、年齢にかかわらず活躍できる社会を実現する必要があると指摘し、70歳までの就業機会確保による就労促進の加速化を図るとし、70歳定年の法案を国会に提出しました。

このような取り組みは、シルバー人材センターの会員拡大にも影響があり、当センター会員の平均年齢は平成30年度末で72.8歳となっており、定年延長によりさらにシルバー会員の平均年齢が上昇することが予測されます。

当センターにおいてもこの状況を踏まえ、シルバー人材センターに対する地域の期待にこたえていくため、安全就業を基本に会員拡大を最大の目標とし、合わせて、地域のコミュニティづくりに努めるとともに、就業機会の拡大をすすめる、高齢者が健康で、生きがいをもって第2の人生を送れるよう、取り組みを進めました。

以下、令和元年度の事業実施状況について報告いたします。

事業実施状況

1. 会員の拡大と普及啓発活動の推進

- (1) 街頭啓発を中心として、市内の主要駅や大型店舗での啓発を行うとともに、市のイベントにも積極的に参加し、当センターの事業等のPRに努めました。
- (2) 会報誌を多くの市民に読んでもらえるよう、市に協力を仰ぎ、市の各窓口到会報誌やパンフレットを配置しました。また、ホームページの充実に向けた検討を始めました。
- (3) 会員一人ひとりが啓発担当となり、「1会員1名の会員勧誘」を目標にして、会員の拡大に努めました。
- (4) ボランティア活動に積極的に参加するとともに、地域の社会貢献に努めました。
- (5) 会員同士が自主的に活動している同好会の活動報告等について、会報誌に取り上げ、就業外での活動をPRし、多くの仲間づくりに努めました。
- (6) 市の広報誌に当シルバーの関連記事を年5回（令和元年7月号、8月

号、9月号、10月号、令和2年1月号)掲載していただき、広く市民にシルバー事業への理解を深めました。

2. 就業機会の確保と適正就業の推進

- (1) 就業開拓員を雇用して、市内事業所等を訪問し、当センター事業の理解を求め、就業機会の新規開拓に努めました。
- (2) 会員一人ひとりがセンターの広報担当として、口コミによる就業開拓活動を推進し、新規の就業確保に努めました。
- (3) 就業基準に関する要綱に基づき、会員に公平な就業機会の提供を図り、未就業会員の解消に努めました。
- (4) シルバー派遣事業を推進するため、就業開拓を積極的に行うとともに希望する会員に対し各種情報の提供、就業機会の拡大に努めました。
- (5) 会員への情報提供として、事務所の掲示板を活用して情報提供に努めました。

3. 安全就業と健康管理の推進

- (1) 安全委員会で、事故の原因分析を行い、事故の再発防止に努めるとともに、会報誌を活用し、安全就業や健康管理の啓発に努めました。
- (2) 安全委員や安全就業推進員による就業先への安全パトロールを定期的に行い、就業現場の安全指導に努めました。また、新規受注にあたっては、事前に就業環境を把握し、安全確保に努めました。
- (3) 就業中の事故や就業途上の事故防止を図るため交通安全に関する安全講習会を企画しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。また、入会説明会においては安全就業の重要性を十分説明し、安全意識の高揚に努めました。
- (4) 会員の健康管理について、認識を深めるため、講習会を開催するとともに、会報誌を通じて健康に関する記事を掲載しました。

4. 研修・講習会の実施

- (1) 会員に対し、各種研修会、講習会等を実施し、会員のスキルアップを図り、発注者の満足度向上に努めました。また、剪定をはじめとする専門的な技術の後継者育成に努めました。
- (2) 派遣会員について、キャリアアップに資する教育研修を実施し、接遇の向上や個人のキャリアアップに努めました。

5. その他

- (1) 事務局職員の資質の向上を図るため、関係機関等主催の各種研修会へ積極的に参加するとともに、他市のセンターとの情報交換を図り、当センターの発展に努めました。
- (2) 会員同士の親睦を図るため個々の趣味を生かした活動を行えるよう、

会報誌等でPRに努めました。

- (3) 会員の知識、技術の習得する場や受注した仕事の作業場及び各種研修会、会議の場としてワークプラザを有効活用し、会員の活動拠点としても積極的に活用しました。